

## ふきのとう舎の名前の由来

雪国では日当たりのよい土手の雪から融けていきます。その土手にある雪の間から一番早く出てくるのがふきのとうです。

創業者で現理事長である佐瀬睦夫が、障がいを持った方々にも春がくるように(雪解けの時が来てほしい)…との願いをこめてふきのとう舎と命名いたしました。

尚、ふきのとうの図柄は社会福祉法人県央福祉会のマークにも使われています。



雪の間から出てきたふきのとう



ふきのとうを図案化した  
社会福祉法人県央福祉会のロゴマーク

※ふきのとうとは…

冬の終わりに雪解け始まる頃、いっせいに芽を出すことから「春の使者」と呼ばれています。

日本原産と言われるふきのとうの歴史は古く、縄文時代から食べられていて、平安時代には栽培されていた、と言われています。独特の苦みと香りがあるふきのとうは、キク科の植物「落（ふき）」のつぼみです。